

10月26日

テーマ：「ゲッセマネの祈り」

聖書箇所：マタイの福音書26章36節～46節

◆今日のみことば

それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できま
すならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うように
ではなく、あなたのみこころのように、なさってください。」

マタイの福音書26章39節

◆メッセージ

イエス・キリストは十字架にかかれる前の日、ゲッセマネの園で心をふりしぼり、真剣に祈
られました。その祈りは3回にわたり、長く苦しい闘いの祈りでした。そのためイエスさまの額
から汗が血のしずくのようにしたたり落ちました。

イエスさまは父なる神さまに2つのことをお願いされました。

一つ目は、「この杯をわたしから過ぎ去らせてください。」その意味は、「十字架にかからない
ようにしてください。」十字架にかかるために生まれてくださったイエスさまが、この願いをして
います。自分の気持ちや思いや願いを素直に祈ってもいいということですね。



でも、イエスさまが一番重い恐ろしい十字架刑を負わ
なければならぬには理由があります。その理由は2つ
目の祈りに関係があります。その祈りは、「しかし、わた
しの願うようにではなく、父なる神さまのみこころのお
りになさってください」です。父なる神さまの思いは、
「一人でも多くの人を救うために、イエスさまが身代わり
になって、十字架にかかって死ぬことでした（ヨハネの
福音書3：16）。わたしたち人間は皆、生まれながら罪

を持っています。その人間を救うことは、罪のないイエスさまにしかできないことだからです。イ
エスさまは父なる神さまのお考えをごぞんじでしたから、「あなたのお考えのとおりなさって
ください」と祈られたのです。

神さまのみこころは、私たちを救い、祝福を与えるものです。もし、あなたが苦しむことがあつ
ても、それが、たくさんの人たちを助けることができるとしたら、どうしますか？ 大好きな友だ
ちのためなら、神さまのみこころに従いたいですね。

イエスさまは、私たち人間を救うために、あえて十字架の苦しみを受けてくださったのです。
なんと大きな愛でしょう。皆さんも、イエスさまに見習って、「神さまのみこころがなりますよう
に」と祈りましょう。

◆お祈り

「自分の願いより神さまのみこころを第一にするように。困っている人たちを自分より優先し
て助けてあげることができるよう。」

(富山聖書教会牧師 北林行雄)